

組織目標評価報告書（平成25年度）

部局名：言語教育センター

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
<p>①教育領域</p> <p>①-1 目標</p> <p>1. 英語系では、新英語カリキュラムの導入に伴い、担当教員・学生へのアンケート及びTOEIC IPテストを実施することにより、新カリキュラムの1年次の教育効果について検証し、カリキュラムの改善について検討する。</p> <p>2. 英語系では、グローバル人材育成特別コースの英語の授業方法を検討し、改良を図る。</p> <p>3. 英語系では、初年次における英語教育について、学生の英語レベルごとに教育効果の向上を図るため、継続して授業方法の検討およびFD研修を実施する。</p> <p>4. 語学カフェ・スペースの移転・拡大に伴い、各語学カフェは、スペースの利用方法について検討し、改良を図る。</p> <p>5. 英語系では、イングリッシュ・カフェの活動の更なる充実と利用拡大を図る。</p> <p>6. 初修外国語系では、海外協定校との相互交流プログラムを実施すると共にカフェ活動を充実させることによって異文化への理解を促進する。</p> <p>7. 初修外国語系では、学生の履修状況を把握・検討の上、カリキュラムの改善を図る。</p> <p>8. 日本語系では、FDとして非常勤講師を含めた日本語教育研究会を開催する。</p> <p>9. 日本語系では、カリキュラム改訂を行い、技能面・内容面での多様性を持たせるために科目数を増やし、教育体制の充実を図る。</p> <p>①-2 目標とする(重要視する)客観的指標</p> <p>6. 協定校(成均館大学校、上海理工大学)との相互交流プログラムの実施およびドイツ語、フランス語、中国語、韓国語の各「カフェ」の活動。</p> <p>8. 日本語系ではFDとしての研究会を年に6回以上開催する。</p> <p>9. 日本語系では新たに12科目の日本語科目を提供する。</p>	<p>自己評価</p> <p>1. 英語系では、新カリキュラムに関して、担当教員・学生へのアンケート及びTOEIC IPテスト(4月2日と12月15日)を実施し、新カリキュラムの教育効果について検証した。(年報及び『大学研究紀要』第9号, pp.111-122に報告)。カリキュラムの改善について検討し、次年度以降の時間割に改善案を反映させることとした。</p> <p>2. 英語系では、グローバル人材育成特別コースの英語の授業方法を検討し、改良を図った。(年報に報告)</p> <p>3. 英語系では、学生の英語レベルごとに教育効果の向上を図るため、Our Share, Reading Group等の検討会をほぼ毎月、Teacher Development Workshopを半期に1回(7月6日と11月9日)開催した。(年報に報告)</p> <p>4. 各語学カフェは、語学カフェ・スペースの有効活用について検討し、改良を図った。授業期間中にイングリッシュ・カフェは平日毎日、初修外国語カフェのうちフランス語と中国語は週1回、にほんごカフェは週2回、L-caféスペースを活用した。</p> <p>5. 英語系では、イングリッシュ・カフェの活動の更なる充実と利用拡大のため、以下の2つを実施した。(1)学生の授業時間外学習の促進を目的とする英語レッスンを前年度より増加させ、前期に22コマ(1,500人以上の学生が参加)、後期に28コマ(880名が参加)実施した。(年報に報告)(2)大学機能強化戦略経費により、9月から平成26年3月まで非常勤職員1名を雇用し、教室エリアのPC、図書、学生スタッフの業務管理、レッスンの出欠など支援体制を整備した。</p> <p>6. 初修外国語系では、7月22日～8月3日に上海理工大学交流プログラム、2月3日～22日に成均館大学校交流プログラムを実施し、それぞれ12名の研修生を招いた。また8月5日～24日に成均館大学校夏期韓国語研修に、3月10日～22日に上海理工大学中国語研修に、本学学生を派遣・引率した。(年報に報告)授業期間中に、ドイツ語・韓国語・フランス語・中国語の各カフェを毎週開催した。</p> <p>7. 初修外国語系では、9月開催の「時間割編成作業部会」で前期と後期の履修者数の実態を検証し、開講クラス数を調整することによって前期と後期の履修者数のアンバランスの解消を図り、「総合」開講コマ数を次年度さらに増やす計画を立てた。</p> <p>8. 日本語系では、日本語教育研究会を6回開催した。(年報に報告)</p> <p>9. 日本語系では、さまざまなトピック・技能別の日本語科目を新たに12科目提供した。(年報に報告)</p>
<p>②研究領域</p> <p>②-1 目標</p> <p>1. 英語系では、新カリキュラムの4技能の授業に関する内容的及び方法的な研究を進める。</p> <p>2. 英語系では、学生の英語力及びモチベーションの向上に関する研究を進める。</p> <p>3. 英語系では、大学英語教育におけるTOEICテスト活用に関する研究を進める。</p> <p>4. 初修外国語系では、各語種共通の教授法改善に関する研究、それぞれの言語文化圏に関する研究を進める。</p> <p>5. 日本語系では、日本語教育及び日本語に関連する研究を行い、その結果を論文及び発表の形で公開する。</p> <p>②-2 目標とする(重要視する)客観的指標</p> <p>5. 日本語系では論文・著書等の出版または学会での研究発表数を4件以上(一人平均1件以上)行う。</p>	<p>自己評価</p> <p>1. 英語系では、前期末に学生へのアンケートを実施し、新カリキュラムの4技能の習熟度別クラスにおいて授業満足度に影響を与える要因について調査した。(『大学研究紀要』第9号, pp.111-122に報告)</p> <p>2. 英語系では、学生の語彙習得における新英語カリキュラムの有効性、及びオンライン・ライティング学習ツールCriterionの学生の自主学習への有効性を検証した。(年報に報告)また、授業の課題としてL-caféでの英会話の課すことの有効性を検証し、3月1日にNew York State TESOL学会で「Guiding the Autonomous Mind in Social Learning Spaces」という題目で発表した。さらに、後期、学生が英語に対する自信を持つことについて新カリキュラムの有効性を検証するため、1月末に学生へのアンケートを実施し、より効果的な授業に関する調査を行った。(次年度紀要に報告する)</p> <p>3. 英語系では、1年次生について4月と12月に全学統一TOEIC-IPテストを実施し、TOEICスコアの伸長度により学生の英語力の向上を測るとともに、TOEICテストの結果データ「項目別正答率」を利用して、本学学生の大きな英語力の特徴を把握した。また、新カリキュラムの効果を検証するため、リスニング・リーディングという「受動的」英語力を測るTOEICテストだけでなく、ライティング・スピーキングという「能動的」英語力を測るため、4月に1年次生72名を対象に第1回TOEIC SWテストを実施した。(年報及び『大学研究紀要』第9号, pp.181-194に報告)比較のための第2回TOEIC SWテストを平成26年12月に予定している。</p> <p>4. 初修外国語系では「教授法検討作業部会」において「総合」クラスの学習効果について検討を行うとともに、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語のより高度な習得をめざした学習プランを作成した。</p> <p>5. 日本語系では、論文等の出版、研究発表を合わせて10件(一人平均2.5件)行った。(添付資料)</p>
<p>③社会貢献(診療を含む)領域</p> <p>③-1 目標</p> <p>1. 外国語の学習を通して人と文化についての理解を深めるという観点から①一般市民に公開された講座や講演を実施する(英語系、初修外国語系、日本語系)。</p> <p>②英語を共通言語とする異文化理解のための公開行事を実施する(英語系)。</p> <p>③各種外国語運用能力に関する外部検定試験を実施・支援する(初修外国語系)。</p> <p>2. 高校生を対象に大学における英語授業を体験する機会をもうける(英語系)。</p> <p>3. 日本語系では日本語教育副専攻コースに社会人を受け入れ、大学と社会との連携を深める。</p> <p>③-2 目標とする(重要視する)客観的指標</p> <p>1. ①特別公開講座の実施。日本語系では公開講座を年2回実施する。</p> <p>③「独検」と「仏検」の岡山会場責任者を務める。「韓国語能力試験」、「漢語水平考」の岡山実施を支援する。</p> <p>3. 日本語系では日本語教育副専攻コースに複数の社会人学生を受け入れる。</p>	<p>自己評価</p> <p>1-① 英語系では、特別公開講座を3回、公開講座とムーンナイトをそれぞれ1回実施した。初修外国語系では9月27日(金)に文芸界の歴史研究会との共催で特別公開講座「<バロック>概念をめぐる 論争の賭け金、政治の目論見」を開催した。さらに、11月9日(土)～10日(日)に国際センター、地域共同開発センターとの共催で特別公開講座「豊子愷シンポジウム」を開催した。日本語系では、特別公開講座を2回実施した。(年報に報告)</p> <p>1-② 英語系では、特別公開講座「Developing global talent: What does it take to become "globally talented"」を実施した。(年報に報告)</p> <p>1-③ 初修外国語系では、フランス語検定試験(仏検)春期およびドイツ語検定試験(独検)秋期の岡山試験会場責任者を務めた。</p> <p>2. 英語系では、イングリッシュ・オン・キャンパス、オープン・キャンパスでの高校生のための大学講座、L-caféでの高校生来訪などを通して、高校生を対象に大学における英語授業を体験する機会をもうけた。(年報に報告)</p> <p>3. 日本語系では、日本語教育副専攻コースに25年度新規生3名、24年度からの継続生4名、計7名の社会人を受け入れた。(年報に報告)</p>
<p>④センター業務</p> <p>④-1 目標</p> <p>共通外国語教育の立案・実施・改善に責任を持ち、全体的な観点から以下の業務を主体的に進める。</p> <p>1. 共通外国語教育(大学院を含む)及び留学生のための日本語教育の実施計画策定とその遂行</p> <p>2. 外国語教育FD活動の実施</p> <p>3. 国際交流・連携事業の実施</p> <p>4. イングリッシュ・カフェならびに各語学カフェ、語学演習室及び関連施設の管理・運営</p> <p>5. 言語・外国語文化に関する、地域社会との連携事業の実施</p> <p>6. 本学における外国語教育実施状況とその成果の広報</p> <p>7. 外国語教授法研究・異文化研究の推進と支援</p> <p>④-2 目標とする(重要視する)客観的指標</p>	<p>自己評価</p> <p>1. 平成25年度入学者から、英語新カリキュラム及びグローバル人材育成特別コース英語力養成プログラムを開始した。平成26年度開講の「総合英語5」の履修希望調査を1年生に行うなど、平成26年度開講準備の業務作業を行った。作業を行うに当たって発生した問題は、その都度話し合いにより解決し、次年度はより円滑に作業できるようにした。英語系では、社会文化科学研究科と自然科学研究科において、ネイティブ教員による科目を開講した。初修外国語系では社会文化科学研究科共通科目として「基礎ドイツ語1, 2」を開講した。日本語系では留学生のための全学日本語コースのカリキュラム改訂を行い、コースを運営した。(年報及び大学教育研究紀要第9号, pp.79-88に報告)</p> <p>2. 英語系では、Teacher Development Workshop, 説明会, Our Share, Reading Group, 特別公開講座, ワークショップを実施した。日本語系では、特別公開講座、日本語教育研究会を開催した。(年報に報告)</p> <p>3. 英語系では、ムーンナイトを開催した。初修外国語系では、協定校(成均館大学校、上海理工大学)との相互交流プログラムを実施した。日本語系では「国際国流スピーチコンテスト」を開催した。(年報に報告)</p> <p>4. イングリッシュ・カフェならびにドイツ語・韓国語・中国語・フランス語・日本語の各カフェ、語学演習室及び関連施設の管理・運営を行った。授業期間中にイングリッシュ・カフェは平日毎日、ドイツ語・韓国語・フランス語・中国語・日本語の各カフェは毎週開催した。(年報に報告)</p> <p>5. 英語系では、特別公開講座を3回、公開講座を1回実施した。初修外国語系では文芸界の歴史研究会との共催で特別公開講座「<バロック>概念をめぐる 論争の賭け金、政治の目論見」、国際センター、地域共同開発センターとの共催で特別公開講座「豊子愷シンポジウム」を開催した。日本語系では、特別公開講座を2回実施した。(年報に報告)</p> <p>6. 言語教育センター「年報」「パンフレット」を刊行した。</p> <p>7. 外国語教授法研究・異文化研究を行い、紀要論文等の出版及び学会での発表を行った。</p>
<p>【総括記述欄】</p> <p>平成25年度は、いずれの領域においても、十分に目標を達成していると考えられます。大学機能強化戦略経費のおかげで、9月から3月まで、L-caféに事務補佐の非常勤職員を雇用できたことにより、L-café 移転により増大した業務に対応することができました。次年度は、言語教育センターの予算により、語学演習室の事務補佐員(継続: 通年1名)に加えて、L-café非常勤職員(通年1名)も雇用する予定です。新カリキュラムの導入により、教務関連の作業が増大しております。4月から言語教育センターの教務担当の非常勤職員を配置して頂くことに感謝しております。英語新カリキュラムではPOを利用するクラスが増えたため、一般教育棟のPC(もしくはタブレットが利用できる)教室が不足しています。少なくとも32教室(各45席以上)あると助かります。</p>	